

# 越前の称念寺門前で

## 再起を図った

### 明智光秀



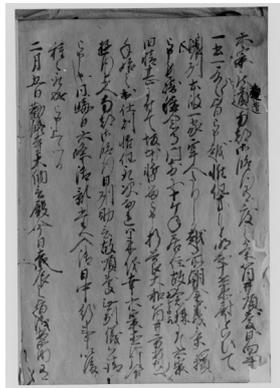
明智光秀肖像（本徳寺蔵）

**織**田信長に仕えた重臣のひとり  
 でありながら、本能寺で信長  
 を急襲した明智光秀。彼の前半生に  
 関する史料はほとんどなく、謎に包  
 まれています。光秀の一生を記し  
 た江戸時代の物語『明智軍記』（現  
 存する版本で最古のものは元禄6  
 （1693）年）には、光秀が信長  
 に仕える以前の記述など他の書物に

は見られない興味深い記載が多くあ  
 りますが、あくまでも光秀の死後百  
 年以上経って書かれた物語です。光  
 秀の足跡において確実といえる部分  
 はあるのでしょうか。

『明智軍記』には、光秀は美濃を  
 追われた後、越前に入ったと記され  
 ています。そして、越前の戦国大名・  
 朝倉義景のもとにいた頃、称念寺（現  
 在の坂井市）の寺地に妻子を住まわ  
 せていたこと、また称念寺の僧とと  
 もに山代温泉に湯治に行く途中で三  
 国津や雄島を遊覧したこと、光秀が  
 三国の船人に日本海上の航路や沿岸  
 の湊について尋ねたことなどが記さ  
 れています。

実はこの記述の一部を裏付ける史



遊行三十一祖京畿御修行記（部分）  
 （画像提供：別願寺）

料があります。時宗の指導者である  
 同念という僧が天正6年から8年  
 （1578～1580）の間に東海・  
 畿内各地を巡った際の記録で、『遊  
 行三十一祖京畿御修行記』という  
 史料です。信長ら武将たちとの交流  
 などが記され、当時の社会情勢を理  
 解するうえで貴重なものです。史料  
 には、光秀はかつて越前の朝倉義  
 景のもとにいた頃に十年間称念寺の  
 門前に住んでおり、その時からの友  
 情で、遣わした僧が光秀居城の坂本  
 城（滋賀県）にしばらく留まった  
 と記されており、光秀が称念寺門前  
 に居住していたことがわかります。

ちなみに、俳人の松尾芭蕉が知人  
 の温かいもてなしを受けた際に、か  
 つて光秀の妻が自分の黒髪を売って  
 金を工面し、光秀を助けたという逸  
 話を思い出し、「月さびよ 明智が  
 妻の 咄しせむ」という句を詠んだ  
 とされ、その句碑も称念寺に建って  
 います。

越前にいて再起を図っていた光  
 秀。彼は現在の坂井市域の花鳥風月  
 を見聞きしながら、夢と野心を胸に  
 抱いていたのかもしれない。

#### 関連史料・ゆかりの地

#### 称念寺



北陸における時宗布教の中心道場と  
 して、朝廷や足利將軍家の祈願所と  
 なり、朝倉家はじめ歴代の越前国主  
 から厚く保護されました。また南北朝  
 時代に新田義貞の遺骸が運ばれ葬ら  
 れた（『太平記』）ことから、義貞の墓  
 所（県史跡）もあります。

【住所】坂井市丸岡町長崎19-17（JR丸岡駅  
 より丸岡行き京福バス「舟寄」下車徒歩10分）

#### 参考資料等

『定本 時宗宗典 下巻』時宗宗務所、二木謙一校註『明智軍記』新人物往来社  
 みくに龍翔館編『みくに龍翔館第25回特別展「天下人の時代と坂井一戦国武将の息吹と足跡」』、『明智光秀公と時衆・称念寺』称念寺

#### 執筆・協力

みくに龍翔館 学芸員 角 明浩